

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2024年度 最優秀園
岐阜市立加納幼稚園

子どもの豊かな感性が磨かれ、創造性の芽生えが育まれるプロセスを「科学する心：好奇心と探究心の高まり」とし、集団と個の観点から分析的に主題に迫る試みをされました。幼児教育の特徴を改めて捉えることにもつながる興味深い論文です。特に、好奇心と探究心の深まりを、「感性と創造性の芽生え」と「興味関心の高まり」という2軸で段階的に整理し、独自の表現と記録と対応させながらまとめた点もユニークであり、高く評価しました。

事例ではナミアゲハチョウの一生を追いながら、産卵に出会い、感動し、それをタブレットで撮影して共有するなど、子どもたちの関心を広げ、興味を維持し、家庭ともつながる機会にもなっていました。保育者が子どもの言葉を丁寧に聴き、いとおしく感じながら関わっていることへの良さも感じられます。子どもたちが幼虫の共食いの場面を見て「僕が友達を食べることだ(友食い)」と表現したり、蝶が死んでしまった際に蝶にとって住みよい環境を作りたいと対話したりするなど、現実と出会い、「自然への畏敬の念」や「相手にとってよい状況」を考えていくプロセスも大変重要です。「知識先行」となりがちな子どもたちが、“その通りでない”ことに会う場面は、私たち大人が意識的に大切にしなければならないことだと考えさせられます。

園を訪問して行われる現地調査の報告から、保育者の環境作りや援助に支えられながら、個の「やりたい」という目的意識(自己課題)が集団の「やりたい・知りたい」という目的意識(集団課題)へと変化している確証が得られました。このことは、多くの保育関係者の参考となります。今後も「科学する心」の本質を捉える研究を重ね、その成果を広く他園へも発信いただけることを期待します。